

### 第3回第4次教育ビジョン策定委員会 議事要旨

日 時	令和5年8月29日（火） 13:00～15:00
場 所	県庁1階 ミナモホール
出席者	<p>&lt;委員&gt; 11名  石田達也 委員、後藤栄一郎 委員、川島政樹 委員、北浦茂 委員、  下屋浩実 委員、高村和代 委員、長屋メイ子 委員、西川信廣 委員  益子典文 委員長、松野英子 委員、名取康夫 委員代理（50音順）</p> <p>&lt;県&gt; 17名  教育長、副教育長、教育次長、義務教育総括監、教育総務課長 他</p>

#### 会議の概要

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項  
○岐阜県振興基本計画～第4次岐阜県教育ビジョン～の骨子案について
- 4 閉会

#### 第4次岐阜県教育ビジョンの「育みたい力」「目指す人間像」に係る議事要旨

- ・今後必要な力がとてもわかりやすい言葉で的確に示されている。
- ・「創造力」の説明中にある「夢」という言葉は、夢が持てない焦りのある子どもにはプレッシャーとなりうる。「可能性」など、子どもの力の伸びを表すような言葉遣いがよいのではないか。
- ・「社会と関わり、その課題を見つけながら」というのは強制的に感じる。子どもが好きで取り組んでいることに可能性があり、面白みを感じることで深い学びにつながる。
- ・「目指す人間像」が非常に抽象的に感じる。ビジョンは中期的目標であり、終期までに目指す人間像を明確に示すべき。「よりよい未来」とは何か、今日子どもたちを取り巻く環境を踏まえて示すのがよいのではないか。また、「持続可能な人材を支える人材」とか「探究心」という言葉をよく聞くが、ビジョンの中には明確に示されていないという印象をもつ。
- ・「失敗をしてもいい」ということが生徒に安心感を与えるので、「目指す人間像」にそのことが伝わる表現を入れるとよいと思う。
- ・第3次教育ビジョンの「世界的な視野」、「グローバルな活躍」はもちろん大切である

が、「目指す人間像」が「ふるさと岐阜」から始まるところは、根幹の部分に触れていて共感できる。その後に続く表現は、レベルの高い話であるという印象がある。

#### 第4次岐阜県教育ビジョンの「基本方針」「基本目標」に係る議事要旨

- ・教育DXは非常に重要。ICTの活用はコロナ禍で加速したが、今後も更に進み中、岐阜県の方向性をビジョンの中で示すことが重要だと考える。
  - ・部活動の地域移行の動きがある。今まで教育が担ってきた、スポーツ、運動の新しいあり方が求められる中で、部活動に対する方向性を示すためにも、基本方針3の『「健やかな体」の育成』において、教育の中でのスポーツ、運動の位置付けを具体的に示すとよいのではないかと。
  - ・体力や健康面は、生徒によって状況は様々である。基本方針3の『「健やかな体」の育成』については、体力的にハンディキャップをもっていたり、生活を整える必要があったりする子どもたちにも、県の思いが届くように表現するとよいのではないかと。
- 教育DXについては、教職員の業務の効率化の観点と、教育の中のICTの活用の観点から、各基本方針に分け、表現を変えて記載している。
- 部活動は、基本方針3及び4に位置付けているが、今後改めて検討したい。
- ・基本方針2『「未来を創る確かな学力と実践力」の育成』の基本目標「スペシャリストを育成する産業教育の推進」について、「スペシャリスト」という言葉を追加した背景や意図は。
- 専門高校では、地域資源を生かした地域産業の振興を探究する取組みを行ってきたが、今後はより深い学びを行っていくことをわかりやすく表現するため、また、専門性について、それぞれの分野で技術革新などに対応できる力を身に付ける必要があるという思いから、言葉を追加した。
- ・産業教育は、専門高校以外の学校でも行われるべきカリキュラムだと思う。また、産業教育は、ふるさと教育としての位置付けも合わせ持っていると思うので、広義の産業教育が一体的に行われるようお願いしたい。
  - ・多文化共生とは、外国籍の児童生徒に学校教育の中で日本の制度等を含めて学んでもらうこととともに、受け入れる側も相手の文化や言語等を学ぶことで初めて成立する。方向性はよいが、小、中、高において、双方向の学びや理解が大切であることがわかるよう表現を検討してほしい。
  - ・不登校だからといって、不登校児童生徒に対応した学校に通うだけでは問題は解決しない。地域の学校と連携して不登校対策にあたり、教育全体としてどうとらえるか考える必要がある。また、公立と私立との垣根を除いて、一丸となって一人の生徒が自立する方法を県で取り入れていくのがよいと思う。

- ・時代の変化やSNSなどのツールを使う影響もあってか、直接対話する力が弱くなっていると感じる。対話力・対応力についても具体的に盛り込むとよいのではないか。  
→対話力を含めたコミュニケーション能力の向上は非常に大切な観点と認識しているため、「徳」を表す基本方針1『「豊かな人間性」の育成』を柱にし、「多様な人とながり、関わる力の向上」の部分で示している。
- ・基本方針3『「健やかな体」の育成』について。コロナ禍を経験し、自分の健康を守るためにどうすればよいのか、非常に翻弄された。これからの教育の現場においても、子どもの時期から自分の健康を守ることや健康・医療の正しい知識や利用する方法を学ぶ、「セルフメディケーション」が必要になってくると感じている。自分の健康を守るための情報教育についての記載があってよいのではないか。
- ・「豊かな人間性」を一番に柱建てした意図は十分伝わった。家庭や地域と学校との連携をここに位置付けたのは共感できる。
- ・子どもたちがそれぞれ興味ある文化芸術活動や、スポーツ活動を安心して参加できる場が今後どうなるのかということが不安。部活動が今後、施策の柱としてどのように位置付くのか大変心配。基本目標には「地域と学校とが連携した望ましい部活動の推進」とあるが、今までの検討会によれば、「部活動は学校で」「地域文化活動は地域で」というように整理されているが、次のビジョンの中で、子どもたちが文化芸術活動を安心してできるよう、具体的な場が明らかになるとよい。  
→昨年、部活動の検討会議を開催し、委員の意見を踏まえ、今年度ガイドラインを策定したところ。「中学校の部活動は学校教育活動の一環」「地域クラブは社会教育活動」と位置付け、中学校は学区ごとに、その地域の大人全体で子どもたちを見守るという考え方に基づいて、ガイドラインを示した。  
→部活動の地域移行は今年度から始まったが、完全移行ができる時期は地域によっても差があり、第4次教育ビジョンの計画期間内では完全移行できるとは想定していないため、施策の部分については、もう少し検討の上、お示したい。
- ・骨組みの整理が難しいが、現代的な課題に対応するために修正するべき部分があると思う。子どもや先生がともに一つの方向に向かって努力していけるよう、県としてどういう方針であるのかがわかりやすい形で示してほしい。
- ・少子化が今後進展していく中で、子どもたちをどういう姿に育てたいか、県の教育委員会としてどのように施策を進めていくかが示されるとよいのではないか。
- ・教員の働き方改革については、県の施策として避けて通れない分野ではないか。  
→本日の委員のご意見を踏まえて、これからの素案作りに取り組みたい。その中で、教育委員会として、何に力を入れるかをもう少し整理したうえで、次回の素案の中でお示したい。